


沖縄国際大学 平成 25 年度 FD 支援プログラム成果報告書

下記内容により、FD 支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「FD 支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

報告者氏名	岩田 直子		所属・職名	人間福祉学科・教授
プログラム名称	障害者福祉施設において実施される地域連携を実践的に学ぶプログラム			
実施及び成果の要旨	<p>1. 実施</p> <p>2012年7月：第2回 Community Market in OKIU “つながりのわ” を開催 2013年1月：第3回 Community Market in OKIU “つながりのわ” を開催 2013年3月：報告書作成</p> <p>2. 成果</p> <p>① 障害者福祉の課題のひとつである社会の側のバリアをなくしていくことに対して、学生自身が解決に向けてイベントを企画・実施することができた。 ② ①を実施していく上で障害者福祉事業所との連携の経験を積むことができた。 ③ 一般市民への啓発が根気のいる仕事であることや、逆に主催学生の思いが他の学生に通じた時の喜びを経験することで、社会福祉実践のおもしろさを学ぶことができた。</p>			
実施期間	自： 2012 年 6 月 1 日 至： 2013 年 1 月 31 日			

※共同実施者（2人以上の場合は、別紙添付のこと）

申請者氏名	印	所属・職名	
申請者氏名	印	所属・職名	

目 的	<p>相談援助実習で学んだことを活かして、社会の側のバリアをなくすための事業を企画し実施する能力を養うプログラムを開発することが目的である。</p>
活 動 内 容	<p>① 2011年度に開催された第1回 Community Market in OKIU “つながりのわ”の実行委員から、取組みのプロセスや成果を学んだ。</p> <p>② 実習前学習を通して沖縄の障害者福祉施設が直面するバリアについて理解した。その上で、第1回 Community Market in OKIUの実行委員のアドバイスを受けながら第2回 Community Market in OKIU “つながりのわ”を開催した。</p> <p>8月～9月：相談援助実習</p> <p>③ 実習後学習を通して、改めて社会がつくりだしたバリアをなくしていくためにはどうしたらいいか議論をした。</p> <p>④ ③を踏まえた上で、ワークショップを開催した。まちづくりNPOのファシリテーターを招聘して計画を立てた。</p> <p>⑤ ④を元にゼミ内で計画を立て準備をし、1月に第3回 Community Market in OKIU “つながりのわ”を開催した。</p> <p>⑥ 報告書を作成した。</p>
成 果・結 果・効 果	<p>Community Market in OKIU “つながりのわ”のイベントスタイルを確立することができた。また、相談援助実習の学習方法として有効であることがわかった。</p> <p>学生自身は、実習を通して学んだ社会問題について学生自身が議論し、解決に向けて企画・実施する経験ができた。この経験から、学生は、企画能力のみならず、関係者に働きかける能力、一般の人に呼び掛ける能力など、ソーシャルワーカーに期待される諸能力を養うことができた。</p> <p>課題としては、初期のメンバーが持っていた自発性と意欲を次の学年に継続することである。初期のメンバーはモチベーションが高く目的も明確だが、引き継いだ後輩は、同じだけのモチベーションを保つことが難しい場面が少なからずあった。</p>
今 後 の 展 望	<p>相談援助実習の実践的学習方法を確立できたが、この学習方法を継続させていく方法について検討を重ねる必要がある。</p>